

APRICOT 2019 参加報告書

鈴木 恒平

2019年3月22日

本稿は2019年2月18日から28日にかけて韓国・大田市にて開催された、インターネットの運用技術に関するカンファレンスである『APRICOT 2019』の参加報告書である。会議は会期前半に実施される“Workshop Days”と後半に開催される“Conference Days”の2部で構成されるが、支援プログラムでは会期後半に開催される“Conference Days”のみが助成対象となっている。このため、報告書では2月25日から2月28日にかけて開催された“Conference Days”に関して報告を行う。報告書ではまず参加したセッションの一覧を示し、参加したセッションの中で印象に残ったものについて感想を述べた後、カンファレンス全体に関する所感を述べる。その後、参加して得られた経験を今後どう活かしたいかについて言及し、最後に参加支援プログラムに対する所感を述べる。

1 参加したセッション

会期中に参加したセッションの一覧を下に示す。このうち、太字になっているものは特に印象に残ったセッションを意味し、次節にてその詳細について述べている。

2月25日(火)

- Newcomers Social
- DNSSEC Validation
- The IPv6-Only Network: Building Networks with DNS64/NAT64/464XLAT
- **Opening Ceremony & Plenary**
- APOPS 1
- Opening Reception

2月26日(水)

- **DNS privacy using Unbound**
- DNS Operations
- Technology
- APNIC IPv6 Deployment

- Routing Security BoF

2月27日(木)

- Routing Security 1
- Routing Security 2
- DataCentre
- Network Operations 1
- ISOC@APRICOT
- Meet the APNIC EC
- **RPKI Key Signing BoF**

2月28日(金)

- IPv4aaS tutorial and hands-on (Part 1)
- NOG Updates
- Lightning Talks
- Closing Plenary
- APRICOT Closing Social

2 印象に残ったセッションの感想

Opening Celemony & Plenary

本セッションではカンファレンスの開催に際して、運営委員からの開会宣言や基調講演が催された。セッション内では2件の基調講演をいただいたが、このうち、Andrew Sullivan 氏の基調講演が印象に残っている。

“Up and Down the Stack Through a Nerd’s Eyes: Making The Internet Better the Internet Way” というタイトルで発表されたこの講演では、多くの人や業界団体がインターネットに関連するようになった今日において、インターネットをより良くしていくうえではその原理について十分理解をしていく必要があるということを、様々な具体例を交えながらお話していただいた。

講演に関してに印象に残ったことの1つに「技術者としてインターネットへの規制を他人事として思わず、政策立案者や規制当局などに対して、それがうまく機能する方法をインターネットの構造という視座から働きかけることが、両者の利益になるだけでなく、インターネットを損なわずに発展させる上で必要である」という旨の発言がある。個人的な感情として、インターネットの規制に関する議論はインターネットの構造に沿わない規制がものが多いなという思いがあり、さらに議論も紛糾しがちになってしまうので、こうしたニュースを見聞きするたびにそのことを窮屈に思ってしまうことが多かった。そうした中、氏の発表を通じて、このような議論に対してどう取り組むべきかといったヒントを得られた。このように、これから更に発展していくインターネット社会において考え方の指針となりうる基準の1つを与えてくれたため、特に記憶に残るものとなった。

DNS privacy using Unbound

一般的に DNS の問い合わせは平文で送信されることから、クライアントの DNS の問い合わせが DNS サーバの管理者によって追跡されたり、第三者によって傍受されたりする可能性がある。こうした行為を防ぐために DNS の問い合わせを暗号化して、利用者のプライバシーを保護しようという動きが存在する。本セッションではこれを実現するための “DNS privacy” という概念に関して、その理論的背景の説明や、その実装であるソフトウェアの紹介や設定例に関する紹介がされた。このような議論は国内ではこれまで全く聞いたことがなく、DNS の利用に関してそういった懸念があることについて知ることができたため、非常に知識欲を駆り立てられた。

RPKI Key Signing BoF

本セッションは “Social” と呼ばれるカテゴリに分類される参加者間での交流セッションの 1 つで、前のセッションに続く形で開催された。ここでは RPKI の導入を推進することを目的として、管理している AS の ROA が生成されていると T シャツがもらえるキャンペーンを行っていた。実際、私が運用する AS が ROA を発行していたこともあって、T シャツを受け取ることができた。そして、このセッション中での参加者との交流をきっかけに会議中に会話する機会が増えたので、参加して非常によかったと思っている。

3 カンファレンス全体を通じた感想

今回初めて APRICOT のカンファレンスに参加して、わからないことも多かったが、アジア太平洋地域におけるインターネットの運用に関する取り組みや、Routing Security をはじめとした特定領域における最前線の議論などを肌身をもって感じる事ができた。そして、多くの人がインターネットの運用やそこで発生している問題に対して取り組んでいるということ、現地に実際に赴いたことで、より実感することができた。また、インターネットを構成する組織はサービスプロバイダやコンテンツ事業者だけでなく、ルータやスイッチを製造している事業者や資源の割り振りを行う事業者、およびソフトウェアを開発する技術者など、様々な立場が存在することも理解できた。こうした中で、自分の中でもこのような議論に継続して参加したいという思いが芽生えた。

4 今回の経験を今後どう生かしていきたいか

今回会議に参加して、当初目的としていた「自身の知識の確認や新しい知識の獲得」ということを達成できただけでなく、そこでどのような議論が行われ、どういう人達がそういった議論に参加しているのかといったことを知ることができた。加えて、カンファレンスの参加を通じて、国内外に同じ興味や関心を持った人々とのつながりなど、その場に限らない継続的な資産も得られた。

また、印象に残ったセッションでは省略したが、最初で開催された “Newcomers Social” にて「世界中にパケットを転送するうえでは人と人との関係が大事である。こうしたつながりを生むのもこのカンファレンスの役割だ。」と運営委員の方が仰っていたこともあって、会議中は周りの人と積極的に話そうという思いで臨んだ。そして、それが実現できたことは自分にとって良い経験となったと同時に、英語でどう表現すればいいかわからない場合においても、聞き手は自分の伝えたいことの意図を汲み取ろうとしてくれることがわかった。そのため、英語に対する抵抗も話してい

るうちになくなってきた。このように英語を通じたコミュニケーションという点においても、今回の参加を通じて得られることが多くあった。

こうした経験は APRICOT に参加した記録という点以外にも広く応用できるものなので、今後他の会議に参加する機会があったときにも活かしていきたい。

5 参加支援プログラムに対する所感

私個人の事情として、大学での研究や自組織のネットワークの運用などで特定の技術やトピックを調査する際に、国外で開催された会議で取りまとめられた文書や、そこで発表された資料を参考にすることが多かった。そして、このような経験を積んでいく中で、こうした議論が行われている会議に直接参加してみたいという思いが生じるようになった。しかしながら、学生という立場である以上、人的・金銭的なサポートがない限りこうした海外のカンファレンスに参加する機会を得ることは非常に困難であり、実際、そうした機会をなかなか得られず、やりきれない思いを抱いていたという背景がある。こうした中で今回インターネットの運用に関する国際的な会議の一つである APRICOT に参加する機会を頂けたことは、自分にとっては願ってもない好機であった。このような機会を与えてくださった参加支援プログラムの委員および協賛団体の関係者の皆様には感謝しきりである。

支援プログラムに関しては、事前の交流会で会議に関する情報を得られただけでなく、ホテルや空港から現地までの送迎バスの手配など、出発前のサポートのみならず、現地に赴いてからの支援もいただけたため、準備期間中から会議の内容に集中できた。こちらについても関係者の皆様に感謝を申し上げたい。

支援プログラムへの要望としては、APNIC 以外にもインターネットに関する国際的な会議が存在するので、これらの会議にも参加支援プログラムが存在するとよい機会になると思った。この他、会議への参加が契機となり新しく意欲が湧くといった心境の変化もあるので、1度だけの支援ではなく、年度単位での継続的な支援があると、当人のキャリア形成にも繋がるプログラムになると考える。